



平成25年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年8月1日

上場会社名 アサヒグループホールディングス株式会社

上場取引所 東

コード番号 2502 URL <http://www.asahigroup-holdings.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 泉谷 直木

問合せ先責任者 (役職名) 広報部門ゼネラルマネージャー (氏名) 爲定 一智

四半期報告書提出予定日 平成25年8月13日

配当支払開始予定日

TEL 03-5608-5126

平成25年8月30日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年12月期第2四半期の連結業績(平成25年1月1日～平成25年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年12月期第2四半期	780,746	9.9	36,911	12.6	34,754	△3.1	15,422	△39.8
24年12月期第2四半期	710,289	9.0	32,784	△10.0	35,855	△13.1	25,634	57.5

(注) 包括利益 25年12月期第2四半期 53,543百万円 (48.1%) 24年12月期第2四半期 36,157百万円 (134.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年12月期第2四半期	33.88	33.84
24年12月期第2四半期	55.03	55.00

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年12月期第2四半期	1,748,265	744,506	42.4
24年12月期	1,732,187	726,879	41.8

(参考) 自己資本 25年12月期第2四半期 740,699百万円 24年12月期 723,819百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年12月期	—	14.00	—	14.00	28.00
25年12月期	—	21.50	—	—	—
25年12月期(予想)	—	—	—	21.50	43.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年12月期の連結業績予想(平成25年1月1日～平成25年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,723,000	9.1	118,000	8.8	118,000	2.8	65,500	14.5	144.23

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注)第1四半期より減価償却方法の変更を行っており、「会計方針の変更を会計上の見積りの変更と区別することが困難な場合」に該当しております。
詳細は、添付資料5ページ「2.サマリー情報(注記事項)に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年12月期2Q	483,585,862 株	24年12月期	483,585,862 株
② 期末自己株式数	25年12月期2Q	30,520,233 株	24年12月期	17,611,484 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年12月期2Q	455,251,022 株	24年12月期2Q	465,783,216 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)5ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	5
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	5
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 継続企業の前提に関する注記	12
(5) セグメント情報等	12
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	13
(7) 重要な後発事象	13
4. 追加情報	14
(1) 補足資料	14

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間（平成25年1月1日～6月30日）における世界経済は、欧州債務問題が残るものの、米国において個人消費の伸びなどを背景に民間需要が堅調に推移したことなどにより、弱い景気回復傾向となりました。

わが国経済におきましては、政府の経済政策や日本銀行の金融政策などによる景気回復への期待が高まるなか、円安株高を背景に企業業績が改善するとともに、輸出や個人消費の回復にも持ち直しの動きがあるなど、緩やかな景気回復が見られました。

こうした状況のなかアサヒグループは、「中期経営計画2015」の初年度である本年度から、「バリュー&ネットワーク経営」を推進することにより、企業価値の向上に取り組みました。「バリュー&ネットワーク経営」では、これまで育成・獲得してきたブランド・技術・コスト競争力などの「強み」への集中やそれを活かした新たな価値創造・革新に加え、国内外のネットワークの更なる拡大に向けた取組みを推進しました。

その結果、アサヒグループの当第2四半期連結累計期間の売上高は7,807億4千6百万円（前年同期比9.9%増）となりました。また、利益につきましては、営業利益は369億1千1百万円（前年同期比12.6%増）、経常利益は347億5千4百万円（前年同期比3.1%減）となりました。四半期純利益は154億2千2百万円（前年同期比39.8%減）となりました。

当四半期のセグメントごとの概況

(単位：百万円)

	売上高	前年同期増減	前年同期比	営業利益	前年同期増減	前年同期比
酒類	409,693	2,113	0.5%	40,567	76	0.2%
飲料	216,292	51,050	30.9%	5,343	3,595	205.7%
食品	50,089	405	0.8%	1,376	482	54.0%
国際	90,813	16,093	21.5%	△4,271	△476	—
その他	13,859	794	6.1%	427	455	—
調整額	—	—	—	△6,531	△5	—
合計	780,746	70,457	9.9%	36,911	4,127	12.6%

【酒類事業】

酒類事業につきましては、ビールが前年同期を下回りましたが、新ジャンルや洋酒が好調に推移したことなどにより、売上高は前年同期比0.5%増の4,096億9千3百万円となりました。営業利益は、ブランド強化のための広告販費が増加したものの、設備投資抑制による減価償却費の低減などその他の固定費全般における効率化に努めた結果、前年同期比0.2%増の405億6千7百万円となりました。

(アサヒビール株式会社)

「アサヒビール株式会社」は、お客様に「選択される」企業を目指して、お客様の潜在的なニーズや市場のトレンドを的確に捉えた商品づくりに取り組みました。

ビール類については、6月に厳選素材を使用したギフト限定のプレミアムビール『アサヒスーパードライ ドライブプレミアム セット』を発売し、『アサヒスーパードライ』のブランド力の強化に取り組みましたが、昨年発売した商品の反動などにより、ビールは前年同期を下回る実績となりました。

一方で、新ジャンルは、3月に発売した『クリアアサヒ プライムリッチ』が好調に推移したことなどにより、前年同期を上回る実績となりました。その結果、ビール類全体の販売数量は、前年同期を上回りました。

ビール類以外の酒類については、焼酎の販売は低調となりましたが、1月から「Brown-Forman Corporation」が有する『ジャック ダニエル』『アーリータイムズ』などの洋酒の販売を開始したことに加え、3月に発売した『アサヒハイリキザ・スペシャル』などの低アルコール飲料や輸入ワインなどのワインが堅調に推移したことなどにより、全体では前年同期の売上を上回りました。

アルコールテイスト清涼飲料については、ビールテイスト清涼飲料『アサヒドライゼロ』における積極的な広告展開や大規模なサンプリング活動を推進し、ブランドの強化・育成に取り組んだ結果、全体でも販売数量は前年同期を上回りました。

利益面では、円安による輸入原材料への影響がありましたが、それを補うべく工場における省エネルギー等の効率化の推進や包装資材のコスト低減などに取り組みました。

【飲料事業】

飲料事業につきましては、「アサヒ飲料株式会社」「株式会社エルビー」の売上が増加したことに加え、新たに連結子会社となった「カルピス株式会社」の業績が上乘せとなったことにより、売上高は前年同期比30.9%増の2,162億9千2百万円となりました。営業利益は、販売数量の増加や広告販促費を中心とした固定費全般の効率化などにより、前年同期比205.7%増の53億4千3百万円となりました。

(アサヒ飲料株式会社)

「アサヒ飲料株式会社」は、既存ブランドの地位向上及び新価値の提案などにより成長を加速させ、また全社を挙げて収益構造の改革に取り組むことにより、事業基盤の強化を図りました。

成長戦略の根幹をなす商品戦略では、主力である『三ツ矢』『ワダ』『アサヒ十六茶』に加え、『アサヒおいしい水』『ウィルキンソン』等のロングセラーブランドに経営資源を集中し、ブランドの強化・育成に取り組みました。また、新価値の提案として大人をターゲットにしたグレープ炭酸飲料『スパイラルグレープ』を6月に発売するなど、市場全体の活性化に努めました。その結果、同社全体の販売数量は前年同期を上回り、過去最高となりました。

利益面では、広告販促費の効率化やPETボトルの軽量化など、収益構造の改革に向けた取組みを強化いたしました。

(カルピス株式会社)

「カルピス株式会社」は、基幹ブランドである『カルピス』のブランド力の更なる向上を図り、乳性飲料における圧倒的な地位の確立に取り組まれました。

3月に主力商品である『カルピスウォーター』『カルピスソーダ』をリニューアルし、4月に水分補給に適したソルティテイストの乳性飲料『カルピスオアシス』を発売するなど、『カルピス』ブランドの市場における存在感を高めるためのマーケティング活動を推進しました。

利益面では、グループ各社との協業による収益性の向上や、広告販促費などの固定費の効率化に努めました。

(株式会社エルビー)

「株式会社エルビー」は、主力のお茶・清涼飲料カテゴリーにおける商品開発などを通じて、新鮮さ・おいしさといったチルド飲料ならではの付加価値の提案を強化いたしました。

3月に「カルピス株式会社」との協業により発売した『味わいカルピス』『「味わいカルピス」練乳仕立て』が好調に推移したことや量販店との取組みを強化したことなどにより、前年同期を上回る売上となりました。

利益面では、最適生産物流体制の構築を開始するとともに、グループ購買の推進などに取り組まれました。

【食品事業】

食品事業につきましては、「和光堂株式会社」「天野実業株式会社」の売上が前年同期を下回ったものの、「アサヒフードアンドヘルスケア株式会社」が堅調に売上を拡大したことにより、売上高は前年同期比0.8%増の500億8千9百万円となりました。営業利益は、製造原価の低減や固定費の効率化などにより、前年同期比54.0%増の13億7千6百万円となりました。

(アサヒフードアンドヘルスケア株式会社)

「アサヒフードアンドヘルスケア株式会社」は、「着実で健全な成長」「お客様の変化に対応できる組織・基盤の整備」「企業ブランド向上と風土改革」に取り組むなど、競合他社にない独自の強みの醸成に努めました。

食品事業においては、ミント系錠菓『ミンティア』及び袋キャンディにおいて、3月に発売した『カルピス』ブランドとの提携商品が好調に推移していることなどにより、売上が拡大いたしました。また、フリーズドライ事業における海外向けの商品が大幅に増加したことなどにより、同社全体で前年同期を上回る売上となりました。

利益面では、製造原価の低減による生産性の向上やグループ物流網の活用などに取り組まれました。

(和光堂株式会社)

「和光堂株式会社」は、既存事業における収益性を高めるとともに、成長分野において次の柱となる事業の育成に努めました。

主力のベビーフードにおいて、『グーグーキッチン』のアイテムを拡充し、対象年齢の拡大を図りました。また、成長分野である高齢者向け事業においては、レトルト介護食『食事は楽し』シリーズの新商品発売やリニューアルなどの取組みを中心に推進しましたが、業務用事業の製造受託が減少したことなどにより、同社全体では前年同期の売上を下回りました。

利益面では、輸入原材料については円安による為替影響を受けましたが、原材料のコストダウンや固定費の効率化を推進し、収益性の改善に努めました。

(天野実業株式会社)

「天野実業株式会社」は、「食品市場における存在感の向上」「収益構造の改革」「お客様の生活を豊かにする創造企業」を基本方針として、事業基盤の強化に取り組みました。

流通販売事業では、量販店における営業活動の強化により、主力のフリーズドライ味噌汁や新商品の『めざまし朝スープ』等を中心に取扱店舗数が増加しました。また、3月から東京においてアンテナショップ「アマノ フリーズドライステーション」を展開し、首都圏におけるアマノブランドの認知度の向上にも努めました。通信販売事業が伸び悩んだことなどにより、同社全体の売上は前年同期を下回りました。

利益面では、エネルギーコストや原材料費など、生産コストの低減に取り組みました。

【国際事業】

国際事業につきましては、各地域の事業が堅調に推移したことなどにより、売上高は前年同期比21.5%増の908億1千3百万円となりました。営業損失は、各地域の事業の収益性は改善したものの、のれんなどの償却費が増加したことなどにより、前年同期に比べ4億7千6百万円悪化し、42億7千1百万円となりました。

(オセアニア事業)

オセアニア事業については、飲料事業の「Schweppes Australia Pty Limited」や酒類事業の「Independent Liquor (NZ) Limited」「Independent Distillers (Aust) Pty Ltd」において、主力ブランドの育成や成長分野における事業展開に加え、事業会社間のコストシナジーの創出などにより、酒類・飲料を合わせた総合飲料事業としての成長に取り組みました。

飲料事業においては、『Schweppes』『Solo』及び『ペプシ』ブランドといった主力の炭酸飲料カテゴリーや成長分野であるミネラルウォーターカテゴリーを中心に、ブランド力向上に向けた販売促進活動を引き続き強化いたしました。酒類事業においては、市場が急拡大しているサイダー（りんご酒）やオセアニアにおける『アサヒ』ブランドの販売拡大に取り組むとともに、新たに『ニッカ』ブランドのウイスキーをオーストラリア市場に投入するなど、成長分野の強化を推進いたしました。

さらに、各事業会社の間接部門を統合したうえで、生産・物流面の効率性向上や原材料の共同調達などを推進し、収益基盤の強化を図りました。

(中国事業)

中国事業については、『アサヒスーパードライ』を中心とする『アサヒ』ブランドの売上拡大による市場での地位向上を図るとともに、生産拠点の集約化を更に進めることで、品質の向上と収益性の改善に取り組みました。

『アサヒ』ブランドにおいては、主要都市における日本料理店を中心とした営業活動の強化を進めたことなどにより、北京・深圳エリアを中心に前年同期を上回る販売数量となりました。

さらに、『アサヒ』ブランドの生産を「北京啤酒朝日有限公司」へ集約化することによる生産性の向上を中心に、収益性の改善に努めました。

(東南アジア事業)

東南アジア事業については、マレーシアの「Permanis Sdn. Bhd.」における主力ブランドの強化による売上の増加に加え、インドネシアにおける飲料事業の事業基盤を構築していくことで、東南アジアの事業ネットワークの拡大を図りました。

「Permanis Sdn. Bhd.」においては、炭酸飲料カテゴリーにおいて主力ブランド『マウンテン・デュー』の派生商品を発売するなど、積極的なマーケティング活動を展開し、売上は前年同期を大きく上回りました。さらに、砂糖・アルミ缶などの原材料調達における効率化の推進などにより、収益性の向上を図りました。

また、インドネシア最大手の食品会社「PT. Indofood CBP Sukses Makmur Tbk」との飲料事業の合弁会社においては、6月に「PepsiCo, Inc.」の同国ボトラー企業の全ての発行済株式を取得する株式売買契約を締結するなど、本格参入に向けた事業基盤の整備を進めました。

【その他の事業】

その他の事業については、売上高は前年同期比6.1%増の138億5千9百万円となりました。営業利益は前年同期比4億5千5百万円改善し、4億2千7百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産、負債及び純資産の状況)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて160億7千8百万円増加しております。これは、アサヒグループの売上高が季節により変動するため、売上債権は最も多い会計年度末に比べ減少する一方で、同じく季節要因による棚卸資産の増加、株式市況の回復に伴う投資有価証券の増加などがあったことによるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べて15億4千9百万円減少しております。これは、主に短期借入金の増加により金融債務（短期借入金、1年内償還予定の社債、1年内返済予定の長期借入金、コマーシャル・ペーパー、社債、長期借入金の合計）が増加した一方、季節要因にかかるもので未払酒税や買掛金などが減少したことや、法人税の支払いによる未払法人税等が減少したことなどによるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ176億2千7百万円増加しております。これは、自己株式の取得を行ったことや配当金支出による利益剰余金の減少があったものの、四半期純利益の計上により利益剰余金が増加したことや、為替相場の変動に伴い為替換算調整勘定が増加したことなどによるものです。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の41.8%から42.4%に増加しました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は410億6千6百万円となり、前連結会計年度末に比べて67億4千5百万円増加しました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、519億3千2百万円の収入となりました。前年同期との比較では、減価償却費やのれん償却額といった非キャッシュ費用が増加したことや、法人税等の支払額の減少などにより、204億7千6百万円の収入増となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得などにより、218億7千1百万円の支出となりました。前年同期との比較では、前年にオセアニア地域での子会社株式取得による支出があったことの反動で支出が減少したことなどにより、25億1千5百万円の支出減となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、244億2千9百万円の支出となりました。前年同期との比較では、自己株式の取得を行ったことなどにより、391億3千万円の支出増となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年2月13日に公表しました業績予想の修正を行っております。

	アサヒグループ	
売上高	1,723,000百万円	(前期比 9.1%増)
営業利益	118,000百万円	(前期比 8.8%増)
経常利益	118,000百万円	(前期比 2.8%増)
当期純利益	65,500百万円	(前期比 14.5%増)

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項**(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動**

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

税金費用については、当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成25年1月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

なお、これによる当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	34,573	41,807
受取手形及び売掛金	317,008	297,571
商品及び製品	79,152	97,798
原材料及び貯蔵品	34,366	34,097
繰延税金資産	12,622	13,008
その他	56,379	46,002
貸倒引当金	△4,914	△2,696
流動資産合計	529,189	527,589
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	431,654	432,931
減価償却累計額	△261,306	△266,741
建物及び構築物（純額）	170,347	166,190
機械装置及び運搬具	551,862	556,832
減価償却累計額	△424,586	△436,434
機械装置及び運搬具（純額）	127,276	120,397
その他	168,422	173,988
減価償却累計額	△96,030	△101,626
その他（純額）	72,392	72,362
土地	205,553	205,622
建設仮勘定	7,828	11,509
有形固定資産合計	583,398	576,082
無形固定資産		
のれん	203,764	203,708
その他	95,373	94,462
無形固定資産合計	299,137	298,170
投資その他の資産		
投資有価証券	266,248	296,464
繰延税金資産	18,212	12,834
その他	39,410	42,270
貸倒引当金	△3,409	△5,145
投資その他の資産合計	320,461	346,423
固定資産合計	1,202,998	1,220,676
資産合計	1,732,187	1,748,265

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	117,774	112,715
短期借入金	174,697	184,492
1年内償還予定の社債	—	10,000
未払酒税	112,598	107,202
未払法人税等	23,201	16,990
預り金	21,200	18,191
コマーシャル・ペーパー	68,000	68,000
賞与引当金	4,139	4,022
その他	158,455	161,563
流動負債合計	680,068	683,176
固定負債		
社債	188,121	178,114
長期借入金	25,415	31,650
退職給付引当金	23,851	23,057
役員退職慰労引当金	480	163
資産除去債務	471	457
繰延税金負債	31,433	31,712
その他	55,467	55,425
固定負債合計	325,239	320,582
負債合計	1,005,308	1,003,759
純資産の部		
株主資本		
資本金	182,531	182,531
資本剰余金	150,641	150,487
利益剰余金	383,177	392,076
自己株式	△27,763	△57,213
株主資本合計	688,586	667,881
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,259	13,532
繰延ヘッジ損益	△5	79
為替換算調整勘定	31,978	59,206
その他の包括利益累計額合計	35,232	72,818
少数株主持分	3,060	3,806
純資産合計	726,879	744,506
負債純資産合計	1,732,187	1,748,265

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

【四半期連結損益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
売上高	710,289	780,746
売上原価	440,783	469,373
売上総利益	269,506	311,373
販売費及び一般管理費	236,721	274,461
営業利益	32,784	36,911
営業外収益		
受取利息	200	187
受取配当金	829	1,060
為替差益	—	652
デリバティブ評価益	77	—
持分法による投資利益	5,213	—
その他	1,064	857
営業外収益合計	7,384	2,758
営業外費用		
支払利息	2,043	1,853
為替差損	531	—
持分法による投資損失	—	1,629
その他	1,738	1,432
営業外費用合計	4,313	4,915
経常利益	35,855	34,754
特別利益		
固定資産売却益	36	60
投資有価証券売却益	12	528
関係会社株式売却益	201	—
持分変動利益	8,088	—
特別利益合計	8,338	588
特別損失		
固定資産除売却損	1,493	1,389
投資有価証券売却損	—	36
投資有価証券評価損	768	4
工場再編関連損失	1,460	—
事業統合関連費用	1,978	953
その他	486	1,669
特別損失合計	6,187	4,054
税金等調整前四半期純利益	38,006	31,288
法人税等	12,094	15,762
少数株主損益調整前四半期純利益	25,911	15,526
少数株主利益	277	104
四半期純利益	25,634	15,422

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	25,911	15,526
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,987	10,272
繰延ヘッジ損益	0	84
為替換算調整勘定	3,946	10,509
持分法適用会社に対する持分相当額	4,311	17,150
その他の包括利益合計	10,246	38,017
四半期包括利益	36,157	53,543
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	35,840	53,007
少数株主に係る四半期包括利益	317	535

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	38,006	31,288
減価償却費	28,469	31,628
のれん償却額	5,695	6,233
退職給付引当金の増減額(△は減少)	1,493	△1,296
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△730	△494
受取利息及び受取配当金	△1,029	△1,247
支払利息	2,043	1,853
持分法による投資損益(△は益)	△5,213	1,629
投資有価証券評価損益(△は益)	768	4
関係会社株式売却損益(△は益)	△201	30
固定資産除売却損益(△は益)	1,457	1,329
持分変動損益(△は益)	△8,088	—
売上債権の増減額(△は増加)	12,380	21,200
たな卸資産の増減額(△は増加)	△18,056	△17,906
仕入債務の増減額(△は減少)	△2,706	△5,720
未払酒税の増減額(△は減少)	△4,438	△5,405
その他	10,991	3,452
小計	60,841	66,580
利息及び配当金の受取額	3,341	3,001
利息の支払額	△2,258	△1,868
法人税等の支払額	△30,467	△15,780
営業活動によるキャッシュ・フロー	31,456	51,932
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△13,238	△17,119
有形固定資産の売却による収入	100	331
無形固定資産の取得による支出	△2,059	△2,805
投資有価証券の取得による支出	△2,824	△2,712
投資有価証券の売却による収入	346	2,630
子会社株式の売却による収入	552	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△5,532	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	—	△117
貸付けによる支出	△1,017	△286
貸付金の回収による収入	712	776
その他	△1,424	△2,569
投資活動によるキャッシュ・フロー	△24,386	△21,871

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	38,628	16,244
リース債務の返済による支出	△3,360	△4,230
長期借入れによる収入	—	6,000
長期借入金の返済による支出	△3,668	△7,180
社債の償還による支出	△10,000	—
自己株式の取得による支出	△6	△30,010
配当金の支払額	△6,286	△6,523
少数株主からの払込みによる収入	—	457
その他	△606	814
財務活動によるキャッシュ・フロー	14,701	△24,429
現金及び現金同等物に係る換算差額	△115	1,113
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	21,655	6,745
現金及び現金同等物の期首残高	16,137	34,320
現金及び現金同等物の四半期末残高	37,793	41,066

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第2四半期連結累計期間(自平成24年1月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	酒類	飲料	食品	国際				
売上高								
外部顧客への売上高	407,579	165,242	49,683	74,719	13,064	710,289	-	710,289
セグメント間の内部 売上高又は振替高	10,768	2,321	943	3	21,992	36,029	△36,029	-
計	418,347	167,564	50,627	74,723	35,056	746,319	△36,029	710,289
セグメント利益又は 損失(△)	40,491	1,748	893	△3,794	△27	39,310	△6,525	32,784

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物流事業他を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失の調整額△6,525百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△6,269百万円、セグメント間取引消去等△256百万円が含まれております。全社費用は、主として純粋持株会社である当社において発生するグループ管理費用であります。
3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第2四半期連結累計期間における、重要な発生及び変動はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	酒類	飲料	食品	国際				
売上高								
外部顧客への売上高	409,693	216,292	50,089	90,813	13,859	780,746	-	780,746
セグメント間の内部 売上高又は振替高	10,901	2,812	1,080	151	24,869	39,814	△39,814	-
計	420,594	219,104	51,169	90,964	38,728	820,561	△39,814	780,746
セグメント利益又は 損失(△)	40,567	5,343	1,376	△4,271	427	43,443	△6,531	36,911

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物流事業他を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失の調整額△6,531百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△5,734百万円、セグメント間取引消去等△796百万円が含まれております。全社費用は、主として純粋持株会社である当社において発生するグループ管理費用であります。
3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第2四半期連結累計期間における、重要な発生及び変動はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成25年2月13日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式取得に係る事項について決議いたしました。これを受け、信託方式による市場買付の方法により、平成25年2月14日から平成25年3月1日までに普通株式13,217,100株、29,999百万円の取得を行いました。

(7) 重要な後発事象

該当事項はありません。